

東日本大震災の記憶を風化させず首都直下地震に備えるため 「3.11を忘れない」を開催しました

東日本大震災から4年を迎えた、本日3月11日（水曜）、区は、セシオン杉並（梅里1-22-32）で、震災を風化させることなく、いつ起こるか分からない新たな災害に備えるため、式典「3.11を忘れない」を開催しました。

東日本大震災から4年経ちましたが、今なお避難生活を送っている人々が多くいます。杉並区と災害時相互援助協定を締結している福島県南相馬市においては、市外で避難生活を送る方々が、未だ1万2千人以上います。

区は、被災した方々に思いを寄せ、震災を風化させることなく、いつ起こるか分からない首都直下地震に備えるため、11日、午後1時15分から、セシオン杉並で、式典「3.11を忘れない」を開催し、地域の方々約500名が出席しました。

式典では、過去の災害発生による被害状況や減災対策の必要性について、福和伸夫氏（名古屋大学減災連携研究センター長）による講演が行われたのち、発災の時刻である午後2時46分に、来場者全員で犠牲者へ哀悼の意を表す黙とうを捧げました。

また、女優の渡辺美佐子さんによる「(南相馬おだか) 未来への伝言その一」の朗読を行いました。この作品は、地震による津波で起きた、福島第一原子力発電所事故の影響で、今なお避難生活を余儀なくされている南相馬市小高区の住民が中心となり、平成25年12月、震災の記憶を後世に伝えていこうと作成されたものです。

文章ときり絵で構成された16ページ立ての作品を、舞台のスクリーン上に写し

だし、ページをめくるのに合わせるように、渡辺さんが朗読しました。作品には、地震が起きた瞬間、津波や避難所の様子、原発事故による避難から一時帰宅までの過程が記されており、渡辺さんのぬくもりある声と真に迫る表現に、会場に集まった人々は、小高区の人々の切なる思いを深く心に刻む様子で静かに聴き入っていました。



【問い合わせ先】

危機管理室危機管理対策課・総務部広報課

TEL: 3312-2111 (代表)